

医療過誤法に不備

患者の権利守る規定必要

医療過誤の責任を問われ、医師が逮捕されたのは極めて異例だ。医療過誤に詳しい弁護士らは、特に診療記録の改ざんを指示した執刀医が逮捕されたことに注目している。

医療過誤事件は高度の医学的な専門知識が問われるとして、警察が捜査に乗り出すケースは限られていない。法律に規定がないからと、ほとんど罪に問われていないと語る。被害者や家族には、医師や病院の責任を問う手段として損害賠償を求め、民事訴訟しか選択肢がなかったのが実情だ。医療過誤に詳しい森谷和馬弁護士は「民事裁判でカルテの改ざんなどの隠蔽行為が判明した医師を業務上過失致死罪で起訴するのは、民事裁判の現場では、証拠請求した日付のレントゲンだけが抜け落ちていたり、病院側が「カルテを紛失した」と主張する

の容疑で同時に逮捕。これにより同装置の記録簿などの改ざんを指示した執刀医についても、事件を立証する証拠の隠蔽を問うことが可能になった。医療事故情報センター(名古屋市中)の堀康司弁護士は「証拠隠滅の適用は、主となる業務の過失が、主たる刑事事件の立件が前提になるもので、こうした手法がいつも使えなければならぬ」と語る。

東京女子医大医療ミスの経過

<2001年>	3月2日	平柳明香さん(当時12)が東京女子医大病院で心臓手術、3日後に死亡
6月		両親の要請で病院側が死亡原因調査委員会を設置
10月		同委員会がミスと記録改ざんによる隠蔽を認める報告書をまとめる
12月29日		医療ミスと隠蔽が表面化、病院長が記者会見で謝罪
<2002年>	1月8日	両親が執刀医ら6人を業務上過失致死容疑などで警視庁に告訴
9日		厚生労働省と東京都病院に立ち入り検査、手術室にいた医師や看護士らから事故を病院に報告してなかったことが判明
23日		厚労省が安全管理体制が確保されていないとして同病院に改善指導
2月15日		再発防止などを条件に病院側と両親の間で示談成立
27日		同病院が医療安全対策新設などの改善計画を厚労省に提出
28日		特定機能病院の承認取り消しを検討する厚労省医療分科会がこの問題で初会合。病院から聴取
6月28日		執刀医ら2人逮捕

東京女子医大 医師逮捕

医師二人が逮捕された東京女子医大病院(東京・新宿)の医療過誤事件。「事故を隠しても

委員ら厳しい指摘

特定機能指定取り消しも

厚労省分科会



亡くなった平柳明香さん

医療分科会は同病院へ。特定機能病院は、高度な医療を提供する施設と見られてきたが、取り消されて全日本で八十病院が指定されている。指定を



質問に答える東京女子医大病院関係者(28日午後、東京都新宿区)

受ける、診療報酬を加算して請求できるなどメリットもある。院内に事故報告の委員会の設置も義務付けられているが、女子医大の場合、全く機能していなかった。

分科会で、同病院長は「事故を隠したのは一人の医師の判断だった」と

組織ぐるみの犯罪を否定しているが、分科会の委員の一人は「心臓手術なら女子医大という権威としておごりが事故や患者に対する対応に表れているのではないか」と指摘する。今回の医療ミスは昨年三月、平柳明香さん(当時12)が心臓の左右の心房を隔てる部分に穴があき、血液の循環が悪くなり、「心房中隔欠損症」を完治させるための手術中に起きた。

病院側の説明によると、手術をしやすいように心臓を一時的に止め、血液を循環させてために人工心臓装置を使っていたが、内部で詰まりが

かけたが、再三にわたる抗議と内部告発もあり、病院側は重い腰を上げて内部調査に乗り出し、昨年十二月にようやく医療ミスと診療記録の改ざんを認め、謝罪した。

林直樹・東京女子医大病院院長の話「このよう

「娘戻ってくるわけではない」

平柳さん自身は歯科医師で、「医療ミスの逮捕者が出たことで、医療自体が萎縮してはくれない」と危惧を語る。そのうえで「私たちと同じような悲しいように繰り返さないようにしてほしい」と求めている。

いいという体質があったのでは」と。事実関係を調査している厚生労働省医療分科会では五月下旬、委員からこんな指摘が相次いだ。逮捕の一報に遺族は個人責任ではなく、病院の体質を検証してほしいと要望した。(一面参照)

発生、気づくのも遅れ、約十五二十分間、明香さんの脳に十分な血液が達しなかったという。「手術中に突然、心不全が起きました」という主治医の説明は、医療ミスに気づいたのは父親の利明さんが歯科医師で医療の知識があったからで、術後に見た明香さんの顔がむくんでいた点に「心不全ではな

かかったが、再三にわたる抗議と内部告発もあり、病院側は重い腰を上げて内部調査に乗り出し、昨年十二月にようやく医療ミスと診療記録の改ざんを認め、謝罪した。

「娘戻ってくるわけではない」

平柳さん自身は歯科医師で、「医療ミスの逮捕者が出たことで、医療自体が萎縮してはくれない」と危惧を語る。そのうえで「私たちと同じような悲しいように繰り返さないようにしてほしい」と求めている。

人工心臓装置を誤って操作した医師と、診療記録を改ざんした医師の二人だが、平柳さんは二人だけの責任ではなく、手術に関与した医師は複数いる。背景に病院の体質がある。背後に病院の体質がある。背後に病院の体質がある。背後に病院の体質がある。

「娘戻ってくるわけではない」

平柳さん自身は歯科医師で、「医療ミスの逮捕者が出たことで、医療自体が萎縮してはくれない」と危惧を語る。そのうえで「私たちと同じような悲しいように繰り返さないようにしてほしい」と求めている。